

2022年度 ヤハギ緑化の「SDGs」の取り組みについて

ヤハギ緑化では、経済と環境が両立できる社会の構築を目指し、25の課題を設定して取り組んでいます。
2022年度のSDGs活動の結果をご紹介します。

緑 域 の 創 造

緑域の創造を通して、豊かな社会づくりに貢献する



【最適な緑域の企画・設計、人にやさしい緑空間のデザイン】

- 外構修景工事計画の際には、地域生態系の保全に配慮して有害とされる外来種を選定しないことや、現地の環境に適した植物の採用を心掛けた。また、多様な植物を混植することにより病害虫の被害を抑えるとともに、既存の空間との連続性を持たせながら人々が集い四季折々に楽しめる植栽エリアを創り出した。
- 親しみやすいオリジナルデザインの樹名板を企画・設置して、利用者がより身近に、植物に興味を持って接することのできる環境を整備した。
- 企業緑化への提案では、障がいの有無に関わらず管理作業のしやすいユニバーサルデザインを取り入れた。
- 中部国際空港の、多くの利用者が目にする和ガーデンやサウスガーデンの整備計画では、地域に馴染みの深いシバザクラを採用し、地域との繋がりを感じられる植栽整備をおこなった。
- パンウォール工事では、工区内の樹木伐採を最小限に止める事で森林環境に与える負荷の軽減を図り、また、自然を模した擬石模様のPCパネル板を用いることで周辺との景観の調和を保つ様配慮した。



【環境負荷の少ない施工】

- 低騒音、低振動、低排出ガス型建設機械の使用を推進し、環境負荷の低減に努めた。
- 揺動（バリカン）式刈払い機の使用。飛石事故を未然に防止し、周囲の構造物を傷つけないよう作業した。課題はチップソーより効率が2~3割下がる為通常の除草作業に支障はないが、灌木の切断はできない事が解った。今後も検証していく。
- 除草作業時の飛石事故や周辺構造物の損傷を防ぐ手法として、揺動（バリカン）式刈払い機での作業を行った。作業効率については従来の刈払機（チップソー）と比べ2~3割落ちる程度で許容範囲と考えられるが、灌木の切断ができない等問題点もあり、引き続き検証していく。
- 街路樹維持管理工事にてPE製カラーコーンからPVC製に変更することにより、破損による廃棄物量の削減や施工性の向上に繋がった。樹脂製の保護カバーの使用により、安全性の向上もみられた。
- PANWALL 工事ではCO2排出削減機械を積極的に活用した。発電機、コンプレッサーは、超低騒音型機械を導入。防音シートを併用して活用。
- 芝張り時に従来は人力で行ってきたアメリカンレーキでの芝寄せを機械化し、炎天下での労務環境の改善を実施した。



【植栽後の枯損防止】

- ビッグロール芝敷設後の初期養生の手順を担当者間で共有し、適切な管理で枯損防止に繋げることができた。
- 街路樹工事の剪定は、樹木の負担を軽減するため、樹種毎に適切な時期に行うよう計画した。



【地域活動に参加】

- 自主的に現場周辺道路の定期清掃を実施。
- 発注者との協業により、空港の滑走路から出る除去後の廃ゴムを再利用した、受験生へ配布するノベルティグッズ「滑り止めのお守り」の作成。
- 公園内の現場では「地域に愛される公園創り」を目標として協力業者を含め、積極的に仮設フェンス内外の清掃を行い、また公園利用者ともコミュニケーションを図り、工事に対する理解や興味を深めてもらった。
- 街路樹管理では、道路管理者と協議後に通常作業に合わせて、建築限界を侵す支障木や視距を妨げる雑木撤去を実施し、地域要求事項に対応すると共に道路利用者の安全確保に努めた。



【廃棄物の削減】

- 環境に配慮した廃棄物の適正処理の推進として、現場から排出された刈草・枝葉木はパルプ材や堆肥の原料となるよう各リサイクル施設へ搬入した。また、公園改修工事では、撤去物の適正処分を行うと共に、現場で発生した伐採木の有効活用を提案し、公園内で利用できる休憩所の椅子を作成した。
- PANWALL 工事では削孔水を循環再利用し、汚泥は脱水処理を行った。グラウト、裏込め材の使用料が過剰にならないように準備し材料ロスを低減。廃棄物の発生防止・削減・再利用により、限りある資源を有効活用することで、循環型社会に貢献できる施工とした。
- ビッグロール芝敷設時に出る端部の芝は極力切断せず、突合せ施工を行い芝の廃材を削減した。

緑 域 の 維 持

緑地を適切に維持管理し、快適な空間を提供する



【公共道路の植栽管理】

- 街路樹維持管理工事にて道路管理者と協議の上、民地から樹木の枝が大きく張り出した箇所など、植栽の異常箇所の剪定を実施した。地域住民他の行政相談対応を迅速に行った。
- 植栽の異常箇所が発生した場合は道路管理者と協議の上、樹木の剪定、除草を行い道路の見通しを改善した。特に大雨後は速やかに点検を実施し、倒木除去を行い事故を未然に防ぐ事ができた。



【スタジアム用芝生の生産】

- 滞りない新規苗まきと育成中の適切な管理により、強度・美観・平滑に優れた高品質な芝を出荷する事ができた。



【環境重視のゴルフ場管理】

- 各ゴルフコースに合わせ健全な芝の育成と適切な樹木管理、池やクリークの定期的な清掃を行った。6コースではゴルフ場外の清掃を行い周辺環境の改善を目指した。



【農薬の適切な管理】

- ゴルフ場での農薬使用量について、昨年比2%減を目標として設定したが、達成ができたのは20コース中6コースとなった。全体平均では±0%となったが、その要因として夏場の長雨の影響が大きいと考えられる。今後も急激な気候変動に対応する必要があり、管理方法を都度見直ししながら使用量の削減を目指す。
- 除草剤の使用は、適切な時期や雑草の種類に合わせた適量を散布し、また目的範囲外へはかからないよう配慮して行った。
- 農薬使用後のタンクやホース内の洗浄は芝圃場内で行い、残液は芝地に散布する等して外部流出がないよう努めた。



【剪定枝のリサイクル】

- 発生した剪定枝や刈草は指定の収集所に搬出し、リサイクルのためにゴミなどの異物を取り除いた。
- 伐採撤去した残材・剪定により発生した枝葉や木くずは、リサイクル処分場に持ち込み、チップ化され製紙の原材料として再生されている。
- 4つのゴルフ場で、発生した剪定木を再資源化のためチップ-及びスタンプグライダ-を用いて木くずとし、場内の樹木周りに敷設した。東濃CC作業所では地場産業である陶器上り窯の燃料として利用している。

技術の開発

パートナーと協働し、新たな緑化技術の開発に取り組む



〔室内緑化をデータにより管理〕

○本社1階壁面緑化のモニタリングを実施。生育状況と施肥・灌水量等を測定しデータの分析結果を管理にフィードバックしている。

〔新しい管理技術の研究、導入〕

○中部国際空港の路面清掃車自動化運転への実証実験開始（発注者との共同考案）。

1号車条件付き自動運転（有人）の実証実験中。2号車の実証実験開始。

2023年度は制限区域内にて1・2号車条件付き自動運転（有人）実証実験開始。

○ゴルフ場の大型自動芝刈機の説明会1回参加（キーパー会）。筑波作業所にてロボット芝刈り機導入。

〔e-TURF データ管理を試験導入〕

○3つのゴルフコースで芝生管理システムを導入し、定期的（1回/月）に改善点・追加事項を検証している。

〔ドローンでデータ収集〕

○ドローンを使用して芝の生育状況の可視化検証実施。（撮影のみ）

働 く 「人」

生きがいと働きがいのある職場を創る



【資格取得の推進】

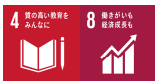
- 2級芝草管理技術取得：5名。
- 資格の取得推進の為、年間スケジュールを作成しフォロー体制を構築した。

【能力向上機会の提供】

- CPDS 認定講習を受講し、20ユニット以上を取得した。
- フルハーネス特別教育、社内研修「三年次研修」の受講。
- 外部講習会実施（コンプライアンス遵守等） キーパー1回、サブキーパー1回
- 管理者研修講座受講：3名（統括）

【現場技術の継承、発展】

- 協力業者を含め、刈払機取扱者およびチェーンソー伐木業務、フルハーネス型墜落制止用器具などの特別教育の実施。
- 制限区域内における運転資格を取得。標準パス取得者5名、車両運転資格者3名。
- PANWALL 施工管理マニュアルを用い、現場での技術指導を作業員全員に実施した。
発注機関での現場見学会の実施。施工中は都度技術指導を行いスキルアップに繋がった。
- ビッグロール敷設未経験の協力業者について、現場での技術指導を実施。経験豊富な協力業者については、問題点、改善点を議論し今後の発展に繋がった。



【70歳以上にも活躍の場】

- 芝生育成圃場において、継続して地元高齢者の雇用を実施。
- ゴルフ場コース管理者高齢者雇用比率全体の20%維持を目指した。結果19.6%とほぼ達成した。



【安全第一に事業活動】

- 新規入場者教育、KYK活動、毎月1回の労働災害防止協議会、安全ポスター掲示による啓発活動を実施し安全意識を高め事故・災害ゼロを目指した。年間を通して労働災害4件（前年2件）、物損事故4件（前年5件）、交通事故1件（前年1件）となった。前年比1件増となった。引き続き目標である事故・災害ゼロを目指す。
- PANWALL 現場では安全がすべてに優先し、不安全行動を防止するために、使いやすい仮設計画を立案。全員参加のミーティングの他、重大災害事故が起こりうる作業については、都度周知会にて指導した。



【健康福祉の向上】

- 従業員全員の健康診断受診（受診率100%）達成。
- コロナ禍における検温・アルコール消毒の実施。
- 熱中症予防対策として、現場で暑さ指数（WBGT）を計測し、危険度が見えるようにした。合わせて、塩タブレットの支給、注意喚起のポスター掲示等を実施した。



【コンプライアンスの遵守】

- 各種法令の理解と遵守を進め、社内監査で指摘された事項を確実に是正し、常にコンプライアンス違反が無いか確認できる体制を整備した。引き続き、コンプライアンス検査指摘事項を熟読し、業務遂行に努める。
- 反社会的勢力と関係する業者は使わないよう事前に誓約書の提出を実施。
- 講習会実施 キーパー教育実施：4回、サブキーパー教育：3回。